

▼アクブラ静注用 [注]

【重要度】★★★ 【一般製剤名】ネダプラチン Nedaplatin 【分類】抗悪性腫瘍剤 [白金製剤]

【単位】▼10mg・▼50mg・▼100mg/V

【常用量】80~100mg/m²

【用法】添付文書参照

【透析患者への投与方法】設定されていない (1)

【その他の報告】50%に減量し、投与開始から3hr後に4hrの血液透析を実施するとAUCは腎機能正常者と同等であった症例(岩崎昭憲, 他: 癌と化学療法 27: 2231-4, 2000) 小細胞肺癌にエトポシドに併用して50mg投与した症例(西岡安弘, 他: 癌と化学療法 26: 527-30, 1999)

HD患者にはHD前に投与して、安全性を確保 (Matsuo N, et al: Yakugaku Zasshi. 2020 PMID: 32115568)

【PD】50mg/body投与により、腎機能正常者の80mg/m²投与時よりやや低いAUCが得られた (Okuyama M, et al: Gan To Kagaku Ryoho 32: 1029-32, 2005)

【保存期CKD患者への投与方法】重篤な腎障害のある患者では有毒性のため禁忌 (1)

【その他の報告】腎障害のある患者、腹水のある患者では血中濃度が上昇 (Matsumoto Y, et al: Oncol Rep 8: 1269-73, 2001)

AUCはGFRと相関し、血小板減少と関連 (Ohbayashi Y, et al: Gan To Kagaku Ryoho 31: 41-4, 2004)

投与量はCcrと相関し dosage = AUC × [0.027 × Ccr + 7.17] で表記 (Ohbayashi Y, et al: Gan To Kagaku Ryoho 31: 713-6, 2004)

Ccr 40~60mL/minでは80mg/m² (Yamamoto N, et al: Cancer Chemother Pharmacol 65: 79-88, 2009)

腎機能からAUCを予測する式は血小板減少を回避するために有用である (Sato S, et al: Cancer Chemother Pharmacol 69: 599-603, 2012)

骨髄抑制と関連するため、CCr 60未満では減量すべき (Araki R, et al: Gan To Kagaku Ryoho 2017 PMID: 28223671)

【特徴】白金化合物で、DNA合成阻害による抗悪性腫瘍活性を示す。

【主な副作用・毒性】悪心、嘔吐、食欲不振、脱毛、骨髄抑制、腎障害、肝障害、電解質異常、アナフィラキシー、アダムス・ストークス発作、難聴・聴力低下、間質性肺炎、SIADHなど

【安全性に関する情報】AUCは血小板減少に関連し、腎機能からCLを算出して投与を個別化できる (Ishibashi T, et al: Anticancer Res 25: 1273-81, 2005) OCT2に認識されないため、尿細管への取り込みが少なく、シスプラチンに比べて尿細管障害を起こしにくい (Uehara T, et al: J Toxicol Pathol 2011 PMID: 22272048)

【モニターすべき項目】腎機能、肝機能、血清電解質、CBC、ECG

【代謝】代謝されない [ラット, イヌ] (1)

【排泄】腎排泄され、Ptとしての尿中回収率は40~69% [24hrまで] (1)

【CL】CLはCCrに正相関 [CL=0.0738×CCr+4.47] (Ishibashi T, et al: Br J Clin Pharmacol 56: 205-13, 2003, Niiooka T, et al: Cancer Chemother Pharmacol 59: 575-80, 2007) 遊離プラチナのCLはCcrと正相関 [CL=0.0836×CCr+3.45] (Ishibashi T, et al: Cancer Chemother Pharmacol 50: 230-6, 2002) シスプラチンやオキサリプラチンと異なり、OCTの基質にならないため近位尿細管に取り込まれず腎毒性は低い (Yonezawa A, et al: J Pharmacol Exp Ther 319: 879-86, 2006)

【t1/2】2相性に消失しα相: 約0.1~1hr, β相: 約2~13hr (1)

【蛋白結合率】ほとんど結合しない (1)

【Vd】7.5~8L/m² (1)

【MW】303.17

【透析性】資料なし (1) 組織分布後のβ相での除去率は低いと思われる (5) シスプラチンより透析性が高い (Nishioka Y, et al: Gan To Kagaku Ryoho 26: 527-30, 1999)

【薬物動態】投与4hr後の血中濃度からAUCを推測できる (Ishibashi T, et al: Anticancer Res 25: 1283-9, 2005)

【O/W係数】pH6~12において有機溶媒にほとんど分配しない (1)

【主な臨床報告】PK/PD解析の総説 (Shimada M, et al: Cancer Manag Res 2013 PMID: 23696716)

【更新日】20240627

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。